

令和5年度 第2回 昭島市社会教育委員会会議・要点録

開催日時／会場 令和5年5月25日（木）午後7時00分～9時09分 204会議室
出席者 谷部議長、松本副議長、指田委員、小池委員、齋藤委員、二ノ宮リム委員、
信國委員
欠席者 小原委員、前川委員
事務局 川崎社会教育係長、中本主任

1 開 会

<配付資料>

資料1 令和5年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会第1回役員会・拡大役員会
次第 他

資料2 第8回市民のニーズを活かす・つなげる あきしま会議について

- ・昭島市月間行事予定表6月
- ・教育・青少年だより エール 6号

2 報 告

(1) 令和5年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会第1回役員会・拡大役員会について (5/16) (資料1)

事務局 資料の協議1、今年度の都市社連協の事業日程表(案)について確認されたい。また、協議2は今年度の各ブロック研修会の実施計画案である。昭島市は本年度第2ブロックの幹事市である。日程、内容等、決まっているブロックもある。昭島市は10月21日アキシマエンス校舎棟にて開催予定で研修テーマについては今後詰めていきたいと思う。

議長 町田市より、ブロック研修会やその他の会議について、オンライン、事前収録、YouTube、などICTを活用したらどうかという申し入れがあった。それについてはアンケート調査を行うこととなった。

全国社会教育委員連合表彰者の被推薦候補者については小平市の委員を推薦することとなった。

第2ブロック研修会の内容については、今月中に方向性を決めて連絡すると伝えた。

(2) 昭島市社会教育委員の公募について

事務局 公募による市民として委嘱した石河委員が4月末で辞任したことにより1名欠員となったため、その残任期間を任期として、委員を公募する。7月1日号の広報に記事を掲載する予定である。

議長 石河委員は国内交流の委員であった。8月初旬には交流事業が予定されている。どなたかお願いできないか。

委員 できる範囲でとはなるが、協力したい。

議長 指田委員にお願いします。

(3) その他

委員 昨日、昭島市健康づくり推進協議会の会議が開催された。昭島市いきいき健康フェスティバル・福祉まつりについて、令和2年度から4年度は中止であるが、令和5年度は開催するかどうかから議論し、開催することとなった。規模を縮小するか、食べ物はどうするか、については今まで出ていた福祉団体・障害者団体にアンケートを実施し意向を確認するなかで、出たいところは出られるようなこととなった。日程は9月18日(月)の祝日。敬老大会と同時開催。

3 協議

(1) 令和5年度東京都社会教育委員連絡協議会第2ブロック研修会について

議長 事前に意見として、「非暴力コミュニケーションについて」と近藤先生にお話しただく案が出ている。まず、非暴力コミュニケーションとはどういうものなのか説明をお願いします。

委員 日本語では共感的コミュニケーションと呼ばれることも多いが、NVC (Nonviolent Communication) とは、アメリカの臨床心理学者が体系化し提唱したコミュニケーション理念と手法である。世界中で実践され国際機関や企業研修、学校教育でも使われている。人と話すとき相手が言ったことの印象で自分で判断し壁を作ってしまうことがあるが、相手や自分が本当に言いたいことに目を向け、その事実に対してその感情にフォーカスする。感情が生まれる原因には人間が根源的に求めているニーズがあるはずである。

人は誰でも根源的に求めているものがある。例えば、人に理解されたい、愛されたい、愛したい、安全に暮らしたいなど、国や年齢は関係ない。人間が必要としていること、そこに焦点を当てると人は繋がれる

例えば、親子間での対立があるが、表面だけ見ると対立が続き悪化することもある。なぜそうなるのか。根源的に何を求めそうなるのかを考えると、親は子供の幸せや成長を望んでいる。子どもは自分のことは自分で決めたいとか、自分が心地よいと思うことで安心して暮らしたいといったニーズがある。そういったことを聞き合えると、なぜ否定されるのか、理解してもらえないのかなどの非難するコミュニケーションから、親が子供の成長に対して望むことや、子供が自分のことは自分で決めたいなどの、本当に求めていることでコミュニケーションができればつながることができる。

日本の社会はあまり本音で語り合わない、語り合えないところがあって、表面的な議論になり終わってしまったりすることもあるが、自分の感情やもっと奥にある大切に生きていきたいものに焦点をあてたコミュニケーションをすると、もっと深いコミュニケーションが実現して、表面的な対立が、深いつながりになる。

例えば教師同士も普段仕事のうえではあまり弱みを見せなかったり、自分のクラスのこと自分で考え、お互いに本当に大切にしたいものについて話し合わなかったりするが、自分はこういう教育をしたいとか深いコミュニケーションができると、表面的には目指しているものが違うように見えていた人たちでも実は求めているものの中

につながれるものがある。という答えを見つけ、その組織の運営がより高い目標に向かって進んでいくことができる。それにより子どもたちへの接し方も変わってくるそうで教育研修で使われている。

それが国際関係や地域の中での対立、国と国との対立などでも、NVCの専門家が入って交渉に使われている。親子関係から、離婚調停、地域、企業、国際関係に至るまでいろいろなレベルで大事だと言われているコミュニケーションの方法である。日野市の教育委員会でも講師を務めた方がいらして、学校教育の中でNVCを進めることに取り組んでいる。多摩地区で活動している方なのでその方に昭島でも話をさせていただきたいと思っていた。

議長 それをメインとして講演をしてもらうということか。

委員 社会教育すべてにおいて、人と人との繋がりや、コミュニケーションが得意、不得意によって変わってくるのではと感じている。日本人はわかってくれて当たり前と思っているところがあるが、海外では通用しない。アメリカでは言わなければ伝わらない。この会議やあきしま会議では自分の意見を言うが、一般社会では言わないことが普通になっていて、そういったことを考えたときに、議論が上手くできないということも感じている。コミュニケーションができず社会で挫折している方もいるので、NVCを社会教育の観点から発信していただき、違った視点からコミュニケーションを考えることも必要ではと考えた。私の中では社会教育とNVCが繋がったので提案する。

委員 令和5年度の都市社連協の統一テーマにある「みんなの願いでつくるまち」はNVCの考え方と共通している。根源的なニーズは願いとも言い換えられる。人が持っている願いで街をつくるというところでNVCの考え方とマッチしていると考えた。

日野市の小学校で3年間「互いに認め合い安心して表現する児童の育成、自分を知り相手を知り語り合いながら生み出す対話的な活動を通して」というテーマで講師をされた方を招くのはいかがか。教員と子どもと保護者が対話できる学校づくりとして、コミュニティスクールの研修にいいのかもしれない。

議長 もう一つ近藤先生の講演について説明願いたい。

委員 あきしま会議の導入時に近藤先生に講演をお願いした。昭島のニーズを把握、昭島を良くしたいという思いを引き出すための手法についてお話を伺った。省察ということをおっしゃっていたが、初心に帰り、もう一度あきしま会議の最初のお話をお聞きしたい。

長く団体をやっていると慣れてしまい、問題があっても改善せずに団体運営を継続してしまうことがあるが、サークルや市民団体などでは総会資料で1年間の活動を振り返るなど、活動報告をしない限り自分たちがやってきたことを振り返ることが無い。あきしま会議で活動報告をすることで自分たちの活動の問題に気が付くこともあるかもしれない。そしてその話を聞いた人が解決策について助言をくれるかもしれない。それにより自分たちの活動をステップアップさせることが可能になる。よって、自分たちの活動を振り返ることが大切であるとおっしゃっていたことが一番印象に残っている。

自分たちの活動を省みるのがあきしま会議でその中からおのずと見えてくる課題を解決する場もあきしま会議で、横や縦のつながりができれば、徐々に活気が戻るので

はないかといったことが印象的だった。

今は違う方向に行きつつあり、新しいムーブメントを起こす必要があるが、そのムーブメントを起こすのが誰かではなく自分たちであるということを考えてもらえたらと思う。

委員 近藤先生は、開発教育について教材を作ったり、教員向けの研修や大学で教えたりしている。開発教育というのは元々途上国と先進国の格差をなくすための教育であるが、最近では国の問題ではなく日本の中にもいろんな格差、差別や人権の問題があり、そういったことも含めた公正な社会をつくる教育が開発教育である。その中で最近アクティブシチズンシップという成人教育の中で非常に注目されている。街とか地域を作っていく市民が動く力のことだが、そういったものについても教材開発をしている。

議長 ステップアップミーティングについて、自信をもって開催するにはどうすればいいのかと思ったときに、初心に帰ればいいのかと思った。副議長もそういう思いだった。今回は日程も既に決まっているので、講師の予定もあるがこの2つの中から、決めていきたい。3人のプレゼンテーションについて委員の意見をいただきたい。

委員 コミュニケーション能力の研修については興味がある。また、あきしま会議の中では、皆と話す中で共有し、自分から湧き出るのもあり、わが身を振り変えるのは大事だと思った。両方とも興味がある。

委員 身近な感じがするので、近藤先生のお話がいいかと思う。

委員 私もそう思うが、NVCについても興味があるが、理解するのが難しそうである。時間が取れば1部が近藤先生、2部をNVCでつなげていくのはどうか。

委員 近藤さんのお話は大事だと思っている。あきしま会議に来ていただきたい。そうすればあきしま会議のメンバーで聞くことができる。

委員 NVCは、グルーピングして実際に体験するのか。

委員 そうである。

委員 手法は、テーマを出しリクエストできるのでは。

委員 年齢が高い方が多いと思うので、実際に体験して理解していただいた方がいい。

委員 NVCの方々には、カードなどのいろいろツールを持っていて、感情とは何か、どうして対立しているのか、願いつながるとはどういうことなのかということなどをワークショップで体感してく。

委員 近藤先生はあきしま会議でお願いしたい。

委員 NVCは総会後の研修会でも話があったので、そことつながるのでいいかと思う。

議長 例年、ブロック研修会は、1部で講演があり、そのテーマについて2部はグループワークが多いが、そのような形でできるのか。

委員 具体的な話を進めているわけではないができると思う。すべてを参加型にしても良い。体験とお話を交互に行うのも良いのでは。

議長 近藤先生は、前回の昭島市が担当のブロック研修会にも来ていただいた。今回は違う方が良い。NVCという方向性が見えているが、それで良いか。講師へのオファーは事務局よりお願いしたい。

事務局 承知した。

(2) 市民のニーズを活かす・つなげる あきしま会議について (資料2)

- 事務局 現在までの申込者は資料のとおりである。
- 委員 ステップアップミーティングの発端になった方は申し込んでいるのか。
- 事務局 参加不参加を確認してみる。
- 議長 困っているような団体があれば、皆さんもお声掛けをお願いしたい。
- 委員 若者の参加についても、ポスターは小中学校で掲示しているが、個別にお声掛けをお願いしたい。
- 委員 ボーイスカウトの子どもたちや、子ども会の役員などにも声をかける。
- 委員 せっかく高校生が考えてくれているので、人は集めたい。以前、環境審議会の若手の委員に声をかけていたと思うが。
- 事務局 お願いしてみる。
- 議長 次に、ファシリテーションについて説明を願いたい。
- 委員 (ファシリテーションのコツ等について資料に基づき説明)
- 議長 あきしま会議の参加者についてはまだ余裕があるので、是非、皆さんからもお声掛けをお願いしたい。
協議事項等は以上だが、他にあるか。
- 委員 あきしま会議のアンケートについて、以前もあったが、QRコードを読み取り回答できるようにできないか。その場で回答するだけでなく、家に帰って自分でおさらいしてから回答できるように。
- 事務局 対応する。
- 委員 共創のしくみづくりについて、話し合いの核となるものを出してはどうか。
- 委員 ステップアップミーティングでは、居場所づくりや交流拠点、情報発信などがあった。
- 委員 付箋の使い方について、使っても使わなくても良いとなると、どう使っているのかわからなかった。付箋にしる、別のものを使うにしる、使い方は明確にした方が良い。
- 議長 本日はこれにて閉会とする。

次回

6月29日(木)午後7時より 204会議室+Web会議

7月27日(木)午後7時より 602会議室+Web会議